



株式会社 **イチケン**

証券コード：1847

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明会資料

2025年12月4日

人と未来に寄り添う「暮らし空間」を。

ICHIKEN For Your Living Space

I . 2026年3月期 第2四半期(中間期)決算概要	3
-----------------------------	---

II . 中期経営計画(2023-2025)の進捗	19
基本方針のトピックス紹介	

I.

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

※

本資料における「受注高」、「完成工事高」、「次期繰越高」及びその増減差(比)などについては株式会社イチケンの個別数値となっております。

事業環境

1. 雇用・所得環境の改善に加えて各種政策の効果もあり、個人消費は底堅く推移し、景気は緩やかな回復が続くものの、各国の金融政策の動向や中東情勢を中心とする地政学リスク等、引き続き今後の状況に注視する必要あり
2. 建設業界においては、政府建設投資は堅調に推移しており、民間設備投資については、企業収益の改善等を背景に高まりが見られたものの、今後の設備投資の動向や慢性的な労働力不足による労務費や資材価格の高騰等、不透明な経営環境が続いている

当社の取り組み

1. コア事業である「商業施設」建築のノウハウや企画・提案力を生かし、店舗等の新築・内装・リニューアル工事や宿泊施設の建設需要に対して積極的な受注活動を行う
2. 創業100周年を迎える2030年を目標とする企業像「ビジョン2030」(長期経営計画)、また初年度からの3ヶ年を「中期経営計画」(2023－2025)とした経営目標を設定し、目標達成に向けた施策を実行

当期の業績

- 前期第2四半期(中間期)より連結決算に移行
- 受注高は前年同期比で増加し、減収増益
- ※2025年10月31日付業績予想を上方修正

(単位:百万円)

	連結 2024年9月期	連結 2025年9月期		公 表 値	イチケン個別 2025年9月期
	金 額	金 額	前 年 増 減	金 額	金 額
受 注 高	52,070	56,134	4,063	—	54,599
次期繰越高	82,013	97,320	15,306	—	94,502
売 上 高	51,601	49,188	▲ 2,412	49,100	47,179
内 訳					
完成工事	51,482	49,069	▲ 2,412	—	47,060
不動産事業	119	118	▲ 0	—	118
売上総利益	4,737	5,828	1,090	—	5,349
内 訳					
完成工事	4,668	5,755	1,086	—	5,276
不動産事業	68	73	4	—	73
販売費及び 一般管理費	1,692	2,099	406	—	1,906
営 業 利 益	3,044	3,728	683	3,700	3,443
経 常 利 益	3,006	3,726	720	3,700	3,534
特 別 損 益	—	1	1	—	—
親会社株主に 帰属する中間純利益	1,999	2,524	524	2,500	2,448

種類別内訳①(イチケン個別)

(単位:百万円)

		受 注 高			完 成 工 事 高			次 期 繰 越 高		
		2024年9月期	2025年9月期	増 減	2024年9月期	2025年9月期	増 減	2024年9月期	2025年9月期	増 減
建 築 工 事	商 業 施 設	29,892	35,386	5,494	21,633	27,027	5,393	33,936	49,040	15,104
	内 訳									
	物販・店舗	17,358	20,711	3,352	17,456	20,476	3,019	19,879	22,141	2,262
	宿泊施設	12,179	12,535	356	3,192	5,151	1,959	13,198	24,310	11,112
	アミューズメント施設	354	2,140	1,785	984	1,399	414	858	2,588	1,730
	住 宅	11,808	14,547	2,738	8,570	9,952	1,382	23,769	38,029	14,260
	事 務 所	2,400	1,175	▲ 1,225	5,785	3,367	▲ 2,418	8,495	3,565	▲ 4,930
	工場・倉庫	7,804	3,391	▲ 4,413	15,146	6,581	▲ 8,564	15,640	3,812	▲ 11,828
	医療・福祉施設	62	11	▲ 51	65	11	▲ 54	-	-	-
	そ の 他	9	21	11	251	21	▲ 230	66	-	▲ 66
計		51,979	54,533	2,553	51,453	46,962	▲ 4,490	81,907	94,447	12,540
土 木 工 事 計		91	66	▲ 24	29	98	68	106	54	▲ 51
合 計		52,070	54,599	2,529	51,482	47,060	▲ 4,421	82,013	94,502	12,488

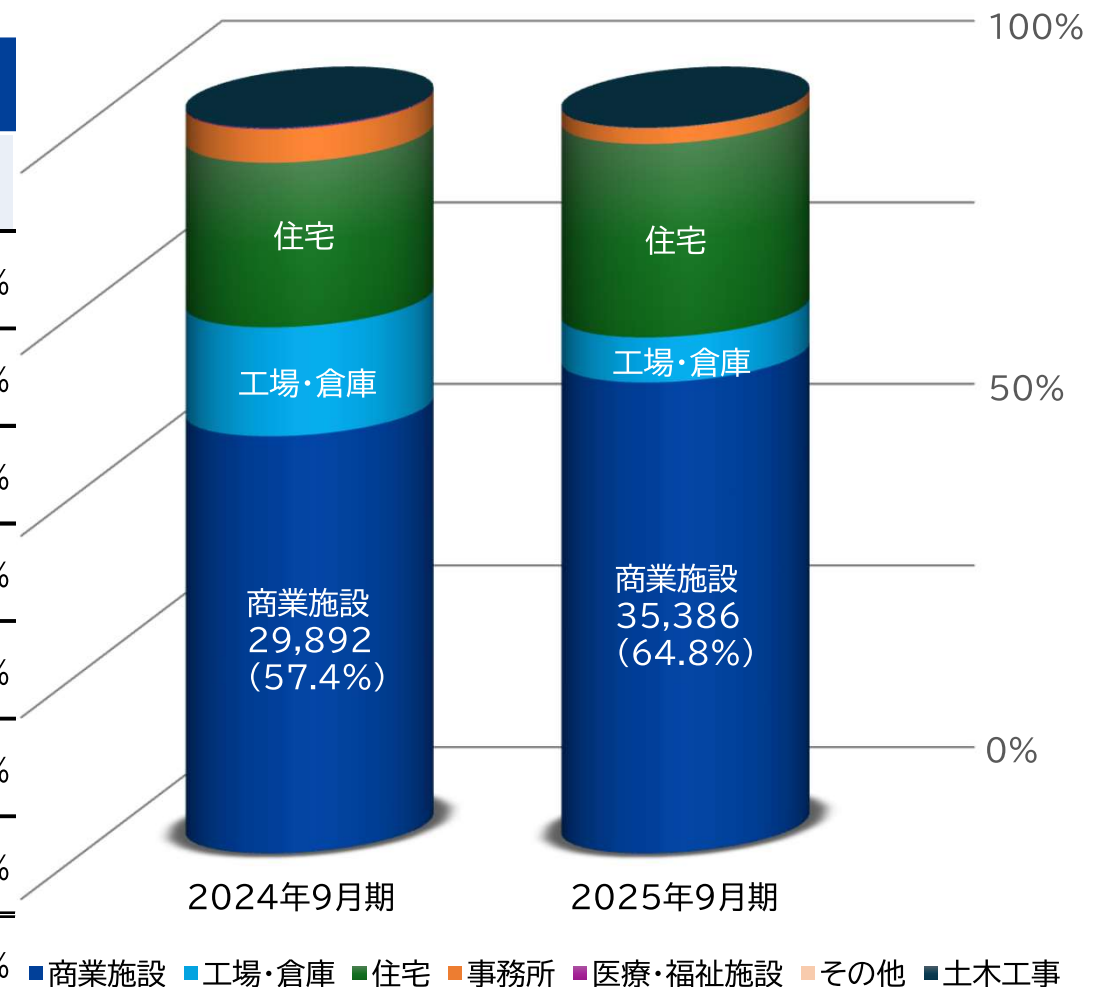
種類別内訳② 受注高(イチケン個別)

■受注高は54,599百万円(前年同期比: +4.9%)

■商業施設を中心とした受注獲得により堅調に推移

(単位:百万円)

	2024年9月期		2025年9月期		増 減	
	金額	構成比	金額	構成比	差	比
商業施設	29,892	57.4%	35,386	64.9%	5,494	18.4%
住宅	11,808	22.7%	14,547	26.6%	2,738	23.2%
事務所	2,400	4.6%	1,175	2.2%	▲ 1,225	▲ 51.1%
工場・倉庫	7,804	15.0%	3,391	6.2%	▲ 4,413	▲ 56.5%
医療・福祉施設	62	0.1%	11	0.0%	▲ 51	▲ 81.9%
その他	9	0.0%	21	0.0%	11	114.1%
土木工事	91	0.2%	66	0.1%	▲ 24	▲ 26.8%
合 計	52,070	100.0%	54,599	100.0%	2,529	4.9%



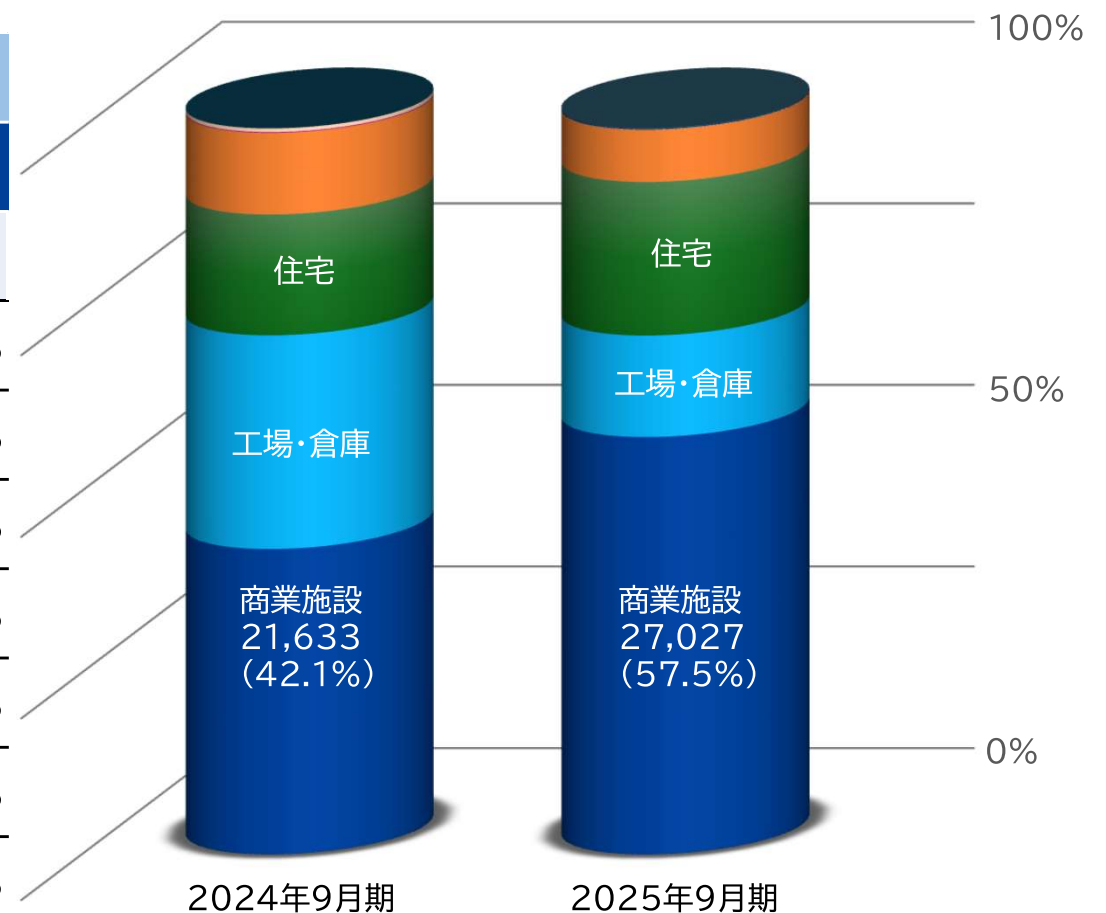
種類別内訳③ 完成工事高(イチケン個別)

■商業施設、住宅を中心に増加。一方、事務所、工場・倉庫は減少

※商業施設は27,027百万円(前年同期比: +24.9%/全体の57.5%)

(単位:百万円)

完 成 工 事 高						
	2024年9月期		2025年9月期		増 減	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	差	比
商業施設	21,633	42.1%	27,027	57.5%	5,393	24.9%
住宅	8,570	16.6%	9,952	21.1%	1,382	16.1%
事務所	5,785	11.2%	3,367	7.2%	▲ 2,418	▲ 41.8%
工場・倉庫	15,146	29.4%	6,581	14.0%	▲ 8,564	▲ 56.5%
医療・福祉施設	65	0.1%	11	0.0%	▲ 54	▲ 82.6%
その他	251	0.5%	21	0.0%	▲ 230	▲ 91.6%
土木工事	29	0.1%	98	0.2%	68	235.8%
合 計	51,482	100.0%	47,060	100.0%	▲ 4,421	▲ 8.6%

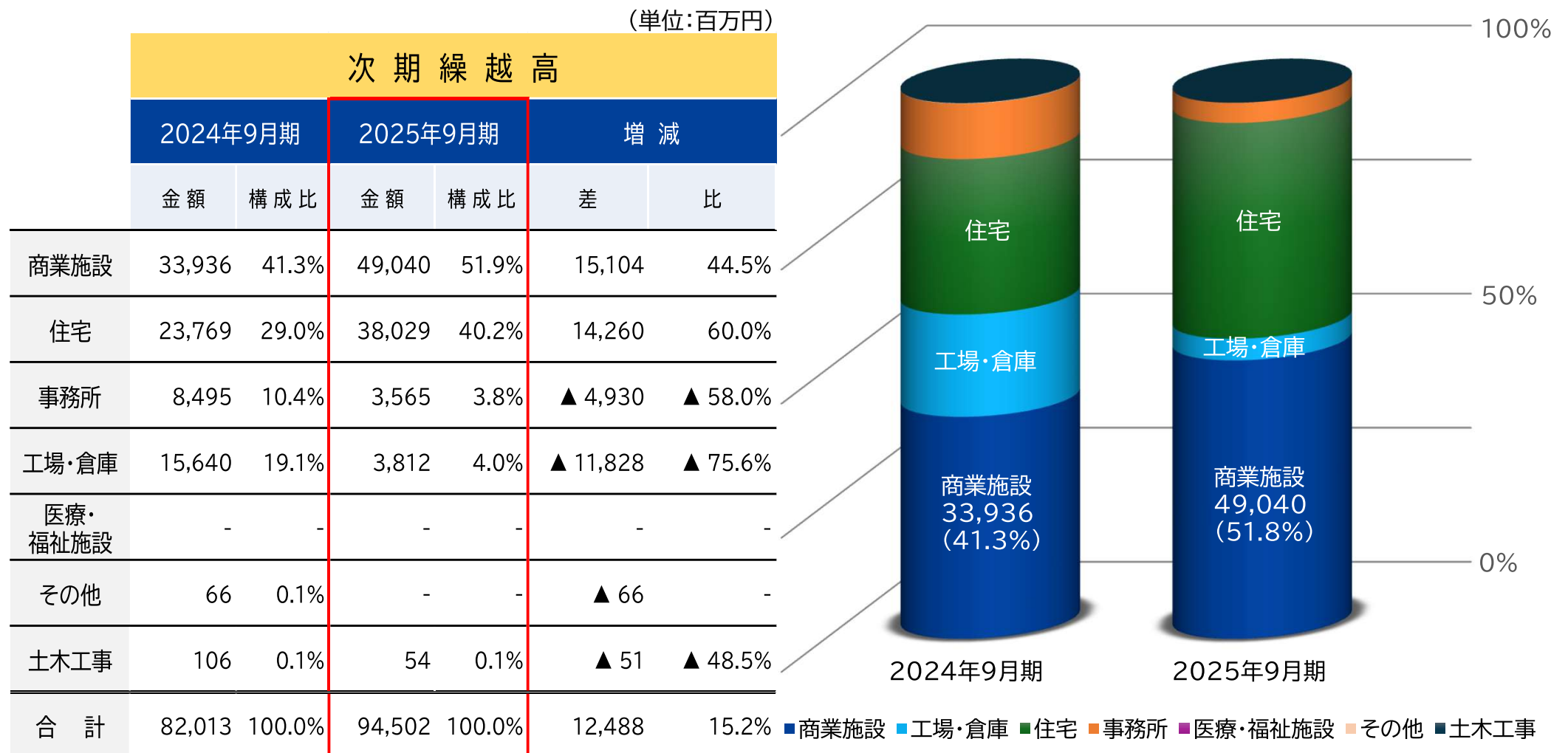


■商業施設 ■工場・倉庫 ■住宅 ■事務所 ■医療・福祉施設 ■その他 ■土木工事

種類別内訳④ 次期繰越高(イチケン個別)

■次期繰越高は、94,502百万円(前年同期比: +15.2%)

※商業施設は49,040百万円(前年同期比: +44.5% / 全体の51.9%)



主な完成工事、主な受注工事(イチケン個別)

■ 主な完成工事

工 事 名	主 な 建 物 用 途	場 所
LOGIPORTAL大正 (LOGIPORTAL大正新築工事)	大型物流施設	大阪府
ミラモール東岸和田駅前 (東岸和田駅西口商業施設計画新築工事)	複合商業施設	大阪府
コープかすかべ東店 (コープかすかべ東店新築工事)	複合商業施設	埼玉県
PMO大門北 (PMO大門北新築工事)	事務所	東京都
コンフォリア・リヴ (東村山市富士見町一丁目計画新築工事)	賃貸マンション	東京都
NICHIJO (NICHIJO新組立工場建設他工事)	工場	北海道

■ 主な受注工事

工 事 名	建 物 用 途	場 所
アパホテル&リゾート<札幌駅前>新築工事	宿泊施設	北海道
アパホテル<広島駅前通>新築工事	宿泊施設	広島県
川口市柳崎一丁目NSCプロジェクト	複合商業施設	埼玉県
かごしま空港ホテル計画	宿泊施設	鹿児島県
ファミリーハウジング改修工事8期	住宅	東京都

完成物件

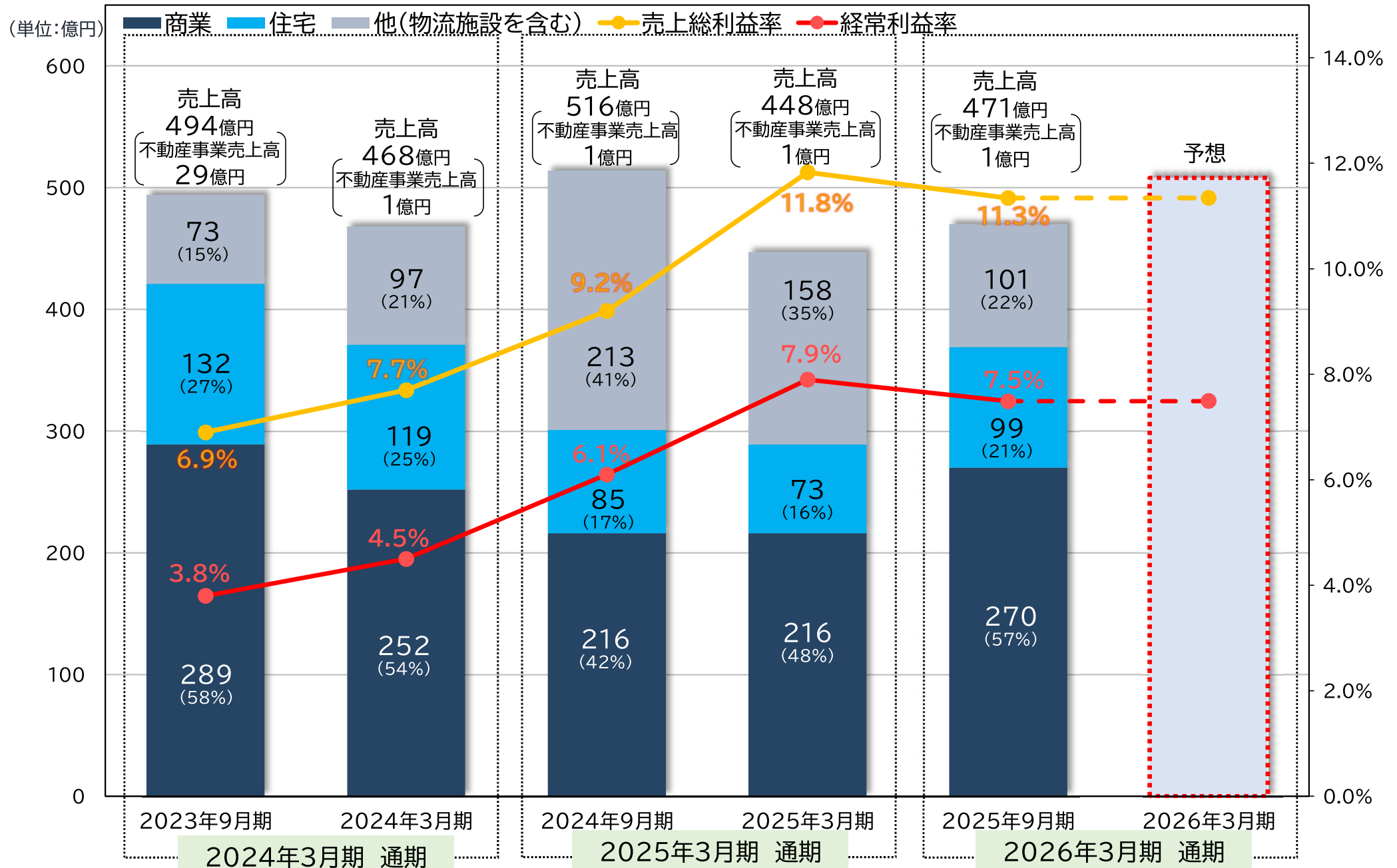


LOGIPORTAL大正



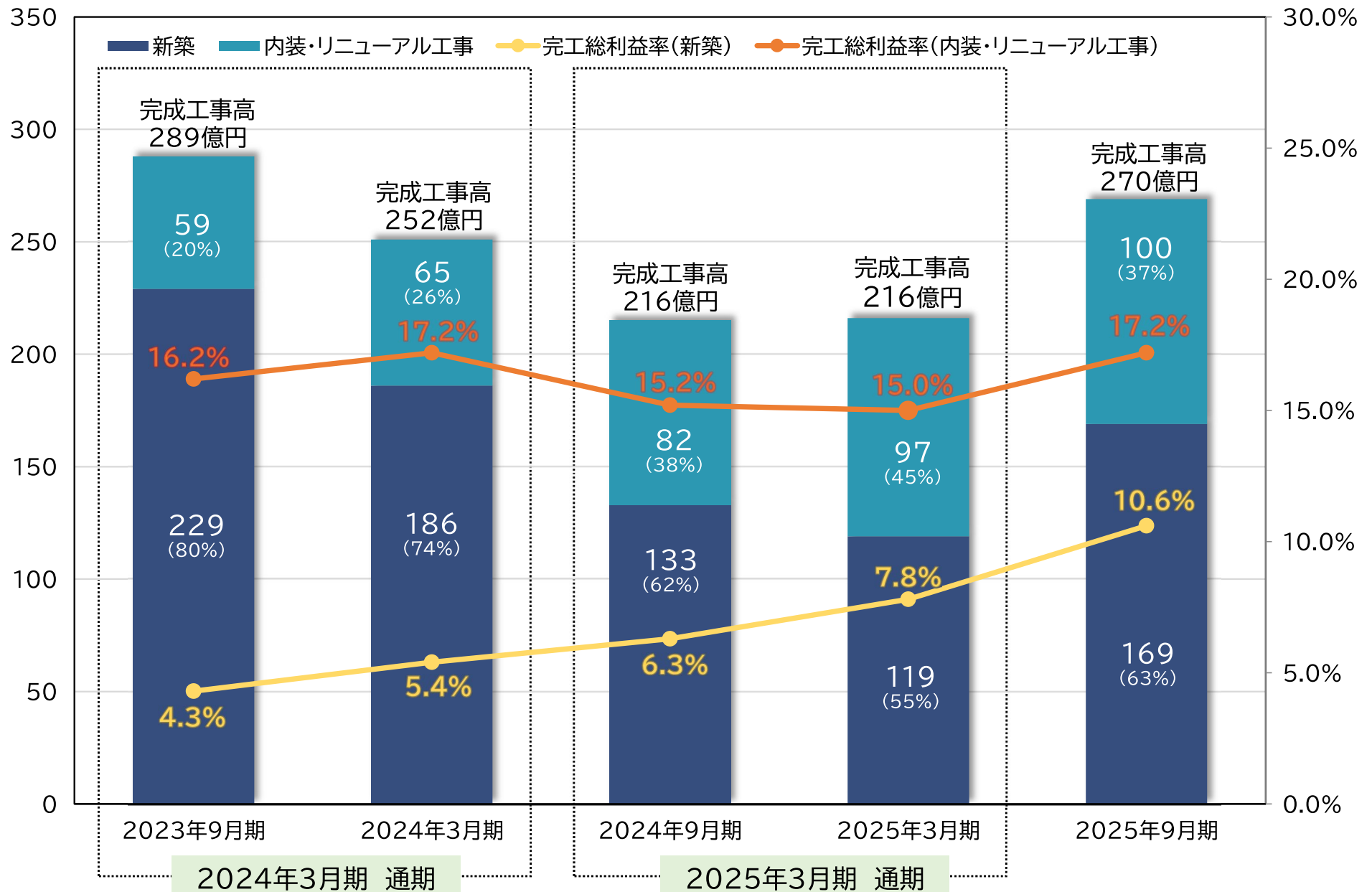
コープかすかべ東店

[種類別] 売上高推移 半期毎(イチケン個別)累計(2023年9月期～2026年3月期)



〔商業施設／新築、内装・リニューアル工事別〕完成工事高推移 半期毎(イチケン個別)累計 (2023年9月期～2025年9月期)

(単位:億円)



中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	連結 2025年3月期 ※	連結 2025年9月期	増減	イチケン個別 2025年3月期	イチケン個別 2025年9月期	増減
資産合計	67,584	68,404	819	65,169	66,538	1,368
流動資産	62,005	62,599	593	58,213	59,253	1,040
固定資産	5,578	5,804	225	6,956	7,284	327
負債合計	33,514	32,257	▲1,256	31,098	30,474	▲624
流動負債	27,085	26,454	▲630	24,683	24,716	32
固定負債	6,429	5,803	▲625	6,414	5,758	▲656
純資産合計	34,069	36,146	2,076	34,071	36,064	1,992
自己資本	34,047	36,123	2,076	34,049	36,042	1,992
新株予約権	22	22	—	22	22	—

※2024年7月の片岡工業との企業結合について、従来暫定的な会計処理を行っておりましたが、当中間期に確定したため、2025年3月期における各数値については、確定内容を反映させております。

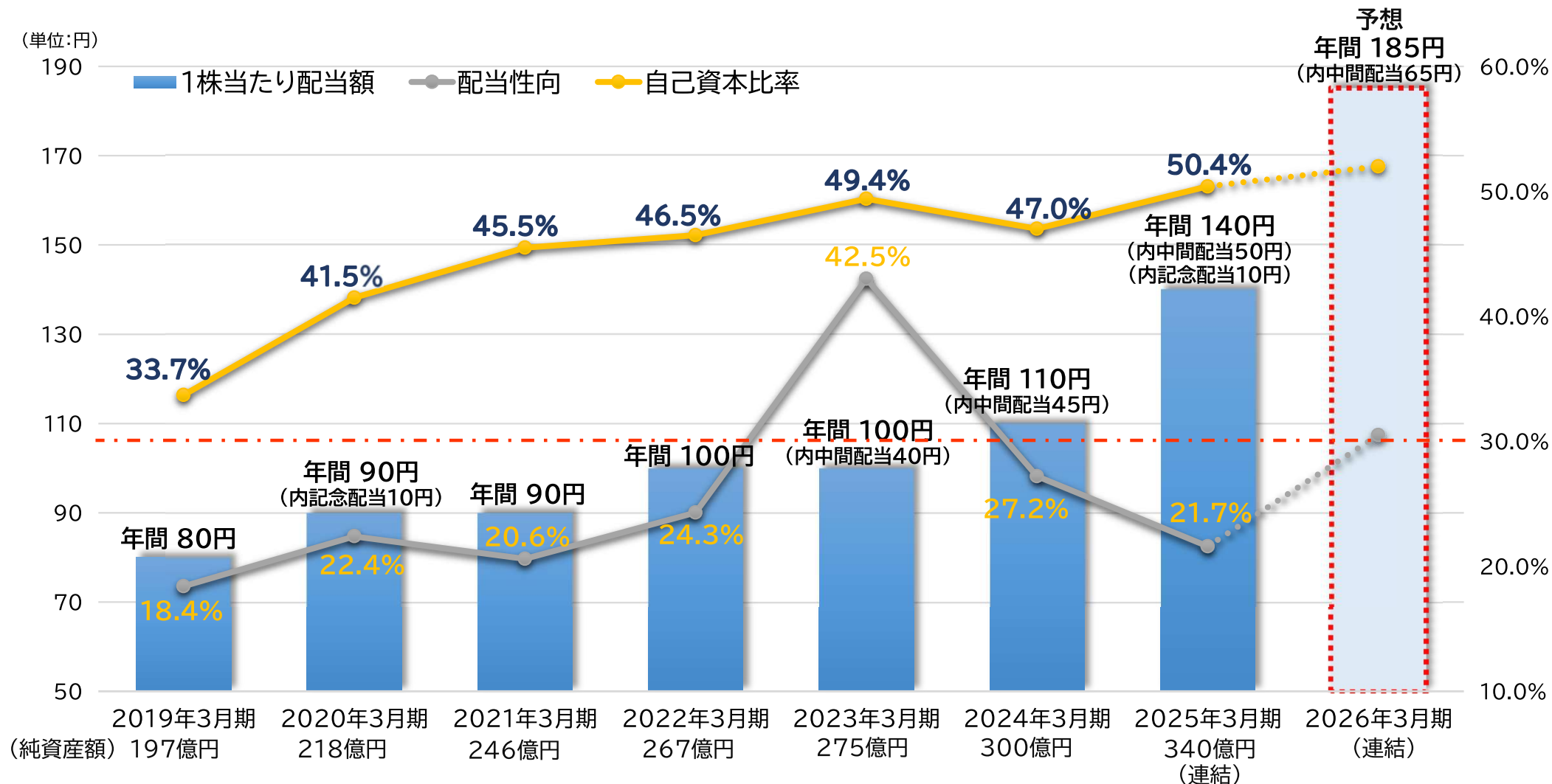
1株当たりの配当額の推移(2019年3月期～2026年3月期)

■成長への投資と安定した株主還元の両立を図る

■2026年3月期の配当予想額は1株当たり185円[中間65円 期末120円]

(業績予想からの配当性向 約30.5%)

※2025年10月31日付配当予想の修正[年間140円⇒185円/45円増配]



重要評価指標の推移(2022年3月期～2026年3月期)

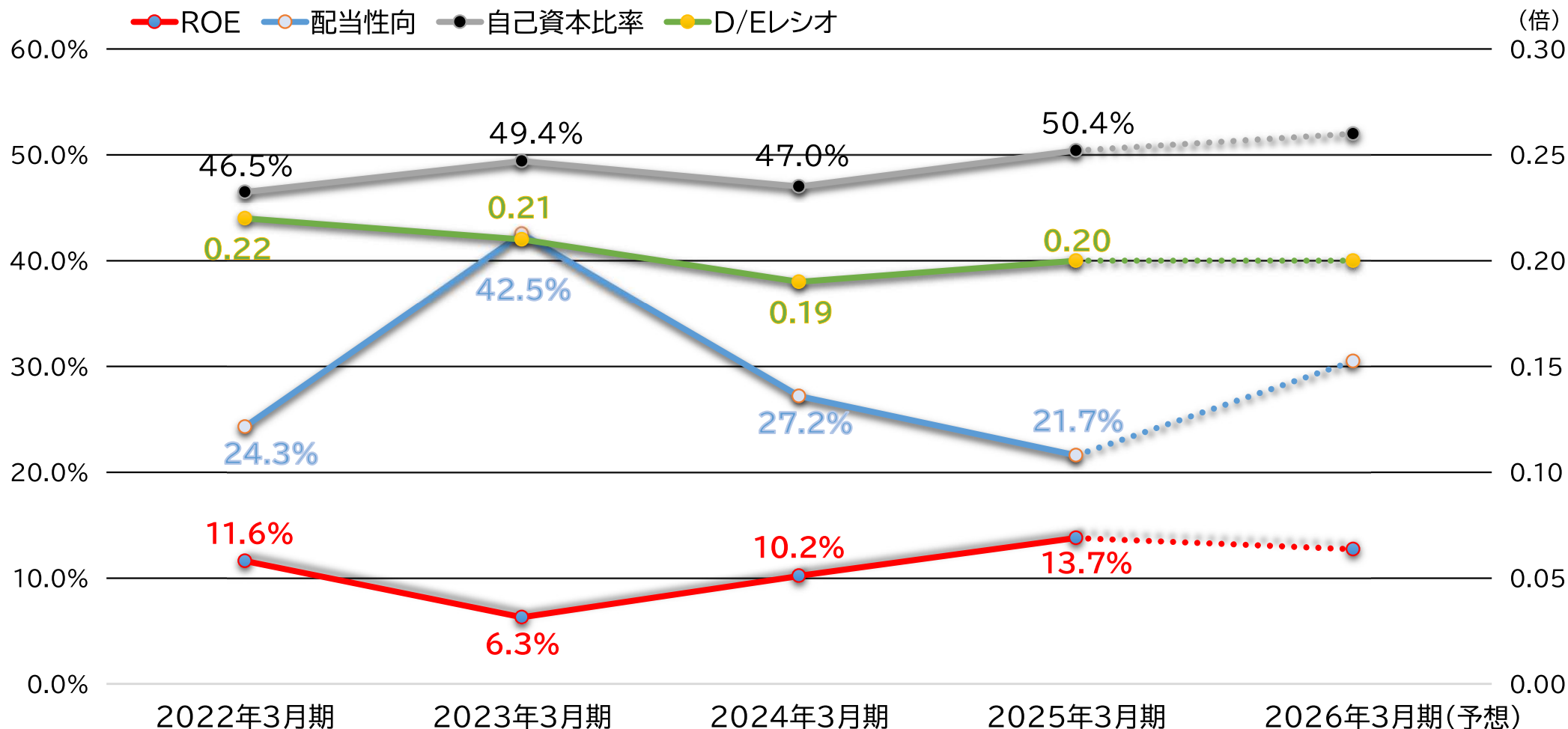
<ROE>
8%以上
(当期純利益÷自己資本)

<配当性向>
30%程度
(1株当たり配当額÷1株当たり当期純利益)

重要評価指標 <現中期経営計画>

<自己資本比率>
50%以上
(自己資本÷総資産)

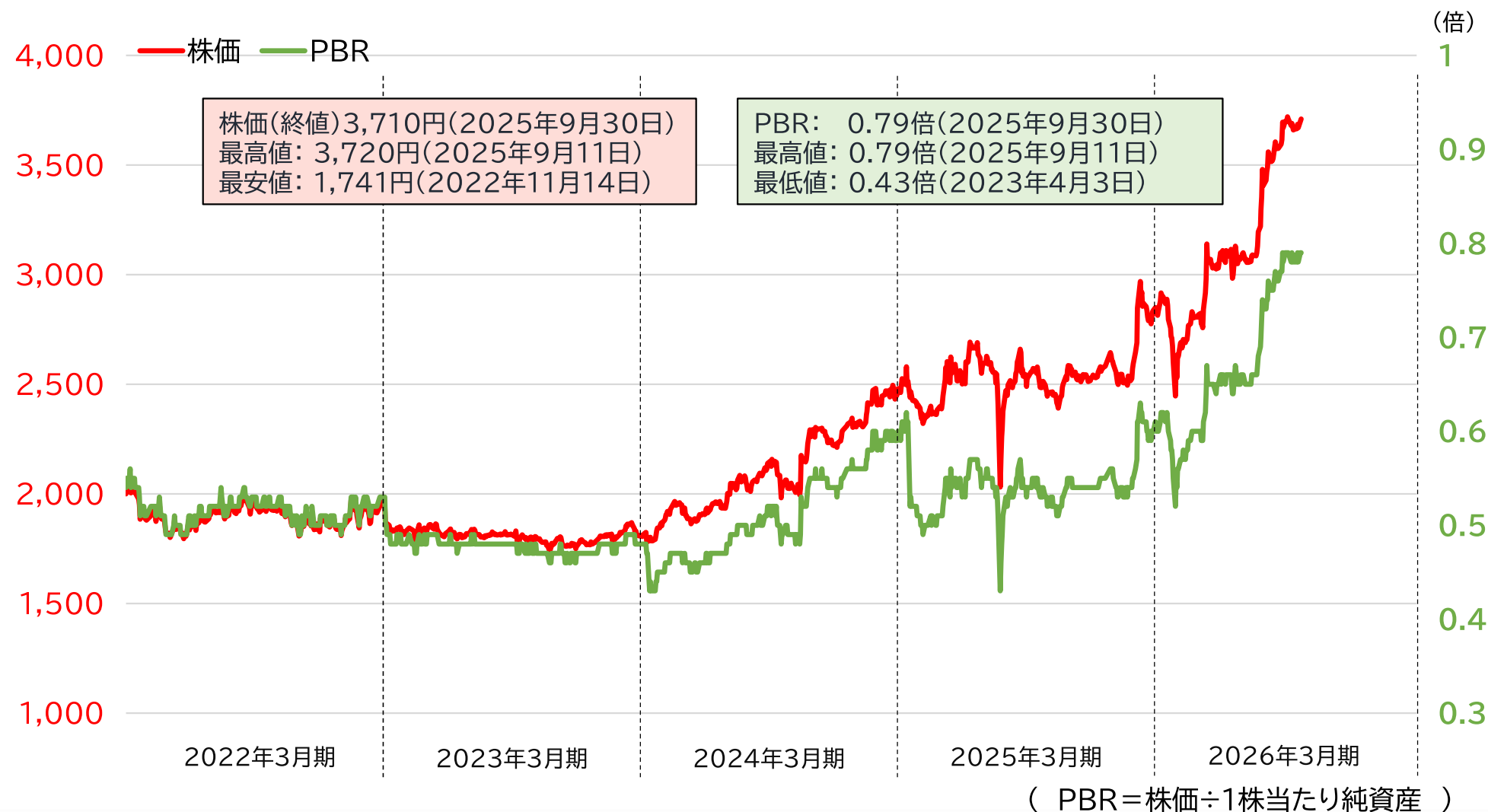
<D/Eレシオ>
0.3倍程度
(有利子負債÷自己資本)



当社の株価の推移(2022年3月期～2026年3月期)

■株価は期初より上昇基調

■PBR1倍超に向けて中長期経営計画の数値目標の達成を目指す



中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2024年 9月期	2025年 9月期	
営業活動による キャッシュ・フロー	4,630	▲967	【営業活動によるCF】 9億6千7百万円 資金の減少 ・税金等調整前中間純利益 + 37億2千7百万円 ・仕入債務の増加 + 25億9千9百万円 ・未成工事支出金の減少 + 12億8千8百万円 ・売上債権等の増加 ▲ 22億6千万円 ・未払消費税等の減少 ▲ 22億5百万円 ・未収消費税等の増加 ▲ 16億6千4百万円 ・法人税等の支払額 ▲ 17億3千5百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	▲1,099	▲255	【投資活動によるCF】 2億5千5百万円 資金の減少 ・有形固定資産の取得による支出 ▲ 2億4千5百万円 ・無形固定資産の取得による支出 ▲ 6千6百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	1,436	▲951	【財務活動によるCF】 9億5千1百万円 資金の減少 ・短期借入金の純増減額 + 4億7千4百万円 ・長期借入金の返済による支出 ▲ 7億4千4百万円 ・配当金の支払額 ▲ 6億5千1百万円
キャッシュ・フロー計	4,966	▲2,173	
現金及び現金同等物の 期末残高※	17,990	17,715	

※3ヵ月超定期預金等の非資金は除く残高

2026年3月期 通期連結業績見通し

■売上高は、1,000億円を超える予想

■利益は、人件費増、本社移転に伴う経費増、特別利益の減(前期政策保有株式の売却)により減益見込み

■1株当たりの配当金は、年間185円とし、増配予想(前期140円から45円の増配)

(単位:百万円)

	(連結) 2025年3月期 実績※	(連結) 2026年3月期 予想			(個別) 2025年3月期 実績	(個別) 2026年3月期 予想	
	金 額	金 額	前年増減	増減率	金 額	金 額	前年増減
売上高	98,999	101,000	2,000	2.0	96,448	98,000	1,551
(売上総利益率)	(10.6%)				(10.4%)		
営業利益	6,835	6,700	▲135	▲2.0	6,747	6,200	▲547
経常利益	6,769	6,600	▲169	▲2.5	6,677	6,200	▲477
親会社株主に帰 属する当期純利 益	4,679	4,400	▲279	▲6.0	4,687	4,300	▲387
1株当たり配当金	140円 〔 中間55円 期末85円 〕	185円 〔 中間65円 期末120円 〕	+45円				

※2024年7月の片岡工業との企業結合について、従来暫定的な会計処理を行っていましたが、当中間期に確定したため、2025年3月期における各数値については、確定内容を反映させております。

Ⅱ.

中期経営計画(2023-2025)の進捗 基本方針のトピックス紹介

中期経営計画(2023-2025) ～基本方針と達成状況～

中期経営計画(2023-2025) テーマ『安定・充実』

基本方針 建設事業の安定と事業領域の拡大・充実を図る

- ①. 事業の中核となる建設事業の安定
- ②. 持続的な成長に向けた事業領域の拡大
- ③. ESG(環境・社会・ガバナンス)経営の実践

投資計画 100億円程度を投資

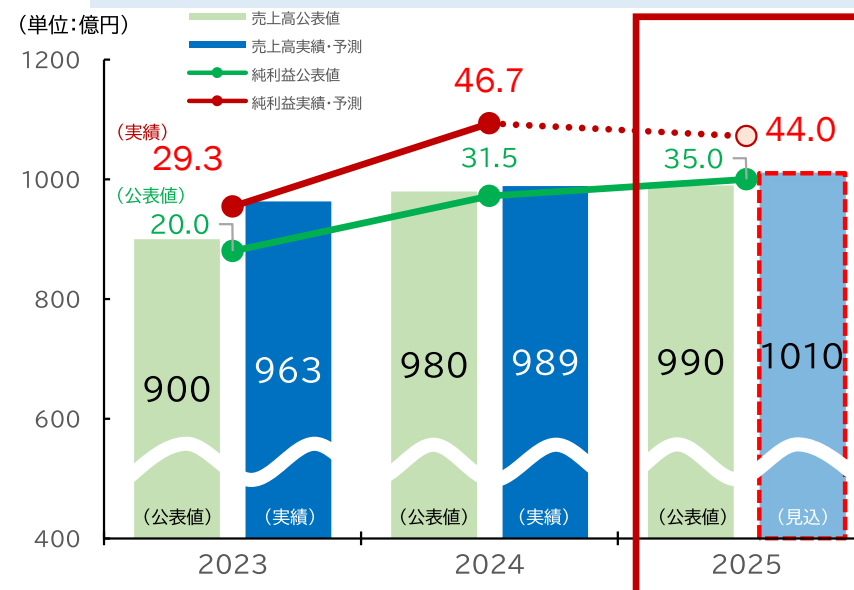
中期経営計画の達成状況

◎ 2024年度より、M&Aによる子会社業績を連結決算に計上

	当計画期間 内 目標値	2023年度 単体実績	2024年度 連結実績	2025年度 連結予想
売上高	930億円	963億円	989億円	1010億円
営業 利益 率	5%程度	4.3%	6.9%	6.6%
R O E	8%以上	10.2%	13.7%	12%程度
配当性向	30%程度	27.2%	21.7%	30%程度

中期経営計画の最終年度は全ての目標値を達成見込み

単年度公表値との実績見込対比(売上高・純利益)



【基本方針①】事業の中核となる建設事業の安定

➔ BIMやICTツールの活用およびZEBの取り組みを推進

建設業界で人手不足が続く中、建設事業の安定につながる体制づくりの一環として、ICTツールの積極的な導入と活用に関心をもち、限られた人員で効率的な業務を行うため、協力会社と一体で取り組みを進めています。

また、ZEB認証の取得にも力を入れており、環境配慮型建築の需要拡大を捉えながら取り組みを進めています。

当期トピックス

- 「技術サポート部」をはじめとする**現場支援体制の拡充**により、**BIMの活用や現場作業を効率化するICTツールの導入・活用が進み**、現場の業務負担軽減につながり始めている
- **工事金請求業務の電子化**を導入し、事務作業を軽減
- 協力会社にICTツールの利用を呼び掛けるだけでなく、当社の社員が現場に赴き、操作方法の説明会を実施するなど、**協力会社と一体となって現場全体の作業効率を向上**
- 営業支援ツールの導入により、**物件の選別を行うための情報基盤が整備され、受注時の収益が向上**
- 当社設計施工 埼玉県内の**商業施設でZEB認証取得**（他に3件、来年のZEB認証取得に向けて準備中）



技術サポート部会



協力会社に向けたICTツール操作説明会



BIM利用促進

【基本方針②】持続的な成長に向けた事業領域の拡大

➡ グループ経営強化に向けた海外(ベトナム)子会社の取り組み

ICHIKEN VIETNAM CONSTRUCTION CO., LTD 《英文表記の略称：I.K.V.C.(アイ・ケー・ヴィ・シー)》

Fujimart(※住友商事とベトナム現地企業との合弁会社)からの店舗施工の受注を主軸として、現地での安定した建設事業展開へ向けた取り組みを進めています。

また、日本国内における将来的なBIMの需要拡大(国土交通省から通知されている日本国内の建築確認申請における「BIM図面審査」「BIMデータ審査」の導入計画への対応)を見込んだ業容拡大を目指した取り組みも進めています。



ベトナム ハノイを中心に活動中(設立 2022年4月)

当期トピックス

- 2025年8月、事業領域の拡大に向けて**ホーチミンシティ営業所を新設**
- 技術者のスキル向上のため、**当社が継続的に教育支援を実施**(BIM担当者がベトナムにて2週間の研修実施 等)
- 現地スタッフの**日本語教育を週2回実施**
- グループ会社相互理解のため**若手社員がベトナム訪問**(現地スタッフとの交流・竣工物件を視察)



ホーチミンシティ営業所のロゴマーク



当社社員によるベトナムでのBIM研修



若手社員のベトナム訪問(竣工物件視察)

【基本方針③】ESG(環境・社会・ガバナンス)経営の実践

➡ ESGマテリアリティに定める取り組みの推進

当社グループは、サステナビリティ(持続可能性)の実現に向け、ESG(環境・社会・ガバナンス)に関する当社グループの重要課題・目標を「ESGマテリアリティ」として設定し、その取り組みを通じて各課題の解決に寄与することが当社の企業価値向上につながるものと考えております。

当期トピックス

■「気候変動リスクへの取り組み」

2025年5月竣工「**コープかすかベテラス**」が**ZEB Ready**認証取得

(埼玉県内で初めてスーパーマーケット・ショッピングセンターとしてZEB認証を取得)

※ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)…エネルギー消費量を最小まで削減し、創エネルギーで自給する建物

■「働きがい向上」

2025年8月、**本社・東京支店を品川に移転**(オフィス環境の整備による業務効率化を図る)

社員の子ども達を対象に「**イチケン体験見学会**」を実施(会社や業務内容について知ってもらう)



コープかすかベテラス(ZEB Ready)



本社・東京支店オフィス



イチケン体験見学会(社員との名刺交換)

中期経営計画(2023-2025) ～投資内容および投資効果と今後の展望～

■ 中期経営計画(2023-2025)現状見込100億円

投資分野	投資見込	主な投資内容	主な投資効果と今後の展望
成長投資	28億円	M & Aの実施等 ■ 片岡工業株式取得、グループ内部統制を整備 ■ 産学連携での技術開発継続 ■ 多角化へ向けた定款変更と実施準備	・片岡工業をグループ会社とすることで土木分野の知見獲得。今後リレーションシップを高めることでシナジー発現を目指す。 ・PMIノウハウ蓄積。今後グループ企業化推進へ向けた糧とする。 ・再生可能エネルギー活用の施設企画等、新規事業推進を計画。
不動産事業	50億円	工事受注創出への取り組み推進 ■ 神奈川県箱根町強羅で土地・建物を購入(施設のバリューアップ) ■ 売却も視野に入れた東京赤坂でのホテル保有	・これまでのノウハウを活かし、不動産開発要素の高い案件への取り組みを進め、自社で工事受注の機会を創出をしつつ不動産事業も強化していく体制を確立していく。 ・投資サイクルのテンポアップを進め、不動産事業売上高計上タイミングの平準化を進めていく。
海外事業	2億円	ベトナム子会社の体制整備推進 ■ BIMオペレーティング体制整備 ■ 人材獲得・育成 ■ ホーチミンシティ営業所 新設	・S造建築成長市場であるベトナムでの足場固め。 ・日本との連携強化で現地スタッフを教育。今後見込まれる日本国内のBIM需要確保を目指す。 ・ベトナム最大の都市ホーチミンでの需要獲得も目指し、現地での存在感を高めていく。
人材開発	10億円	働き方改革を推進 ■ 技能研修等の充実 ■ 本社及び東京支店の移転 ■ 業務効率化への投資を実施	・建設業界の慢性的人手不足の中でも、研修の充実により、イチケン品質を維持・向上。今後も継続し、事業の持続可能性を高めていく。 ・本社移転を機会とし環境整備へ投資を行う事で働きやすい環境を実現。今後、より優秀な若い人材の獲得へ繋げる。
デジタル化	10億円	DX推進の取り組み ■ 作業効率向上へ向けたデジタル商材への投資実施 ■ 社内デジタル人材育成へ向けた教育 ■ 今期より「DX推進部」を新設、取り組みを加速	・導入したデジタル商材活用による現場事務効率化推進中。現場での働き方改革・4週8閉所等の推進へ繋げていく。 ・ITツールの活用により、議事録作成業務他、事務作業を効率化。利用促進・浸透を進めることで、社員の単純事務作業負担を減らしクリエイティブな業務を増やす。

長期経営計画と次期中期経営計画について



長期経営計画(ビジョン2030)概要

● 目標とする企業像

安定した成長を続けていくとともに社会の持続的発展に貢献する企業

● 経営目標

売上高 1,000 億円	総資産 900億円前後
営業利益率 5%程度	人員数 800名前後

【進捗状況】

- ・売上高目標 1,000 億円 → **前倒しで達成が見込まれる**
- ・営業利益率 2024年度 → **超過達成**
2025年度 → **超過達成 (見込)**

長期経営計画『ビジョン2030』のローリングも視野に、さらなる成長を目指した次期中期経営計画の策定を進め、本年度末に公表することを予定しています。

コーポレート メッセージ

人と未来に寄り添う「暮らし空間」を。 For Your Living Space

お客様・取引先・地域に暮らす人々・社員とその家族 全てのステークホルダーに対して、快適で豊かな社会の実現と社員の働きがい向上を目指し、「暮らし空間」事業を通じて未来を創造・提案していく企業姿勢をこのメッセージに込めています。



当社ホームページ

動画でわかる!

イチケン

イチケンのこれまでの歩みや、
事業などのさまざまな動画を
ご覧いただけます



- ・ 本資料は、株式会社イチケン(以下、当社)をご理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資活動勧誘を目的としておりません。
- ・ 本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。
- ・ 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- ・ 本資料中の業績予測ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果があります。

株式会社イチケン
財務経理部 高垣
TEL 03(5931)5642